HC合同勉強会　概要

# はじめに

　本書では、HC合同勉強会の目的と取り扱うスキル範囲について明示する。それを踏まえて、実現する将来のビジョンについて記載する。

本書を書くにあたり、キヤノンITSをCITS、日立製作所をHITACHIとする。

# 目的

HC合同勉強会は、以下の目的のもと運営される。

★イシカワの考え。付け足し、削除可能

1. CITSとHITACHIの若手社員のITインフラスキルのアップ
2. CITSとHITACHIの業務内容共有 (※1)
3. 全工程で必要になる知識と経験を習得
4. 10年後を見据えた意識改革

(※1) 開示する情報については十分に注意すること

1.　 CITSとHITACHIの若手社員のITインフラスキルのアップ

　ITインフラスキルは大学で学ぶ機会はほぼないと考える。そのため、専攻分野によらずインフラ分野に配属された若手は現場で戦力になるまで時間がかかる。現在は、終身雇用制度の終焉や転職において売り手市場であることによる人材流動性が高くなっている反面、CITSやHITACHIの若手は、他中小企業と比較すると裁量権がなく成長の機会が少ないため、このような時代に乗り遅れている。

そこで、HC合同勉強会を開催することでITインフラスキルを向上させ、ITインフラ業界において市場価値の高い人材を目指す。

２.　 CITSとHITACHIの業務内容共有

　現状、HITACHIとCITSではビジネスモデルや業務範囲が異なる。そのため、２社の業務内容やノウハウを共有することで、自身が経験できない範囲を経験している人材と会話ができると考える。共通部分についても参考にできる部分を業務に生かすことで、Win-Winの関係を目指す。また、新たなビジネスの創出の機会ともなりうると考える。

３.　全工程で必要になる知識と経験を習得

　要件定義から運用保守まですべてを担当できるプロジェクトはCITSとHITACHIには無く、配属された部署によって業務範囲は固定されてしまうと考える。そこでHC合同勉強会では、要件定義から運用保守までをターゲットに取り扱うスキル範囲を定める。これにより、全工程で必要になる知識と経験を習得することを目指す。

４.　 10年後を見据えた意識改革

IT技術の変化は目まぐるしく変化していく。そのため現在の両社の得意分野における、市場ニーズの確保は難しい。そこで、10年後を見据えた意識改革として、技術の習得のみならず、各個人の意識、ITへの概念を改めていく。

# スキル範囲

HC合同勉強会では、主にインフラ技術をベースにテーマを取り扱う予定。現状決定している主なテーマは以下の通り。

★適当に記述したため、栗とのすり合わせ必要

<表3-1> HC合同勉強会取り扱いスキル範囲

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| テーマ | 技術 | 具体例 |
| インフラスキル | クラウド | AWS |
| VDI |  |
| ジョブ管理(監視) |  |
| 時刻同期 |  |
| RPA | ・UiPath  ・Ansible |
| マネジメントスキル | 要件定義～運用保守 | ・それぞれの工程でなにをするか  ・勘所をおさえる  (運用保守)  ・保守費用の削減、効率化が要求される中で開発手法、ツールから見直し |
| プロジェクト管理 | ・WBS  ・課題管理  ・定例会 |
| コスト管理 |  |
| コンサルティングスキル |  |  |

インフラスキルにとどまらず、マネジメントスキルやコンサルティングスキルについても取り扱うことで、中長期的にも成長できる環境を整える。

インフラスキルについては、１つの技術や製品に焦点を当てるのではなく、インフラとして王道の知識や技術について取り扱う予定。これにより、所属する会社の技術や製品にとらわれないエンジニアになることを目指す。

マネジメントスキルについては、それぞれの工程で実施することや、成果物について調査する。実際に仮想プロジェクトを立ち上げ、要件定義から運用保守までを経験することも目指す。

コンサルティングスキルについては、～

４章 将来のビジョンにも記載しているが、上記のスキルだけでは将来のビジョンを実現することは不可能である。しかし、HC合同勉強会の目的として第一にインフラスキルを向上することを挙げている。そのため、まずはインフラスキルについての学習を進める予定である。不足分のスキルについては逐一リストアップし、取り扱いスキル範囲へ取り込む。

# 将来のビジョン

　本勉強会を通して得た経験やスキルを活かし、将来実現したいビジョンは以下の通りである。

1. 研究室と提携し、社会課題を解決するサービスをリリース
2. CITSとHITACHIの社内起業制度を活用し、共同で事業立ち上げ
3. クラウドファンディングで資金を集めてプロジェクト立ち上げ

このビジョンの実現には、インフラスキルだけでなく企画力や課題解決力のようなスキルも身に着けていかなければならない。立ち上げるプロジェクトについてはインフラ技術に拘ってはいないが、基本的にAWSのようなクラウドを用いてサービスを開発することになると予想している。